

きずな



2015年 7月23日

NO 1035

赤旗井原出張所

井原市井原町103 (Tel 62-6200)

日本共産党93周年 平和の岐路、いまこそ力合わせ

日本を「海外で戦争する国」につくりかえる戦争法案の国会審議が緊迫した局面を迎えるなか、日本共産党はきょう、1922年（大正11年）7月15日の創立から93周年を迎えました。当時の日本は侵略戦争へ突き進む暗黒時代でしたが、日本共産党は命がけて反戦平和を掲げ、過酷な弾圧に屈せずたたかい抜きました。民意に逆らい暴走する安倍晋三政権のもと、戦争か平和かの大きな歴史の岐路にあるいま、日本共産党は反戦平和を貫いてきた党の真価を発揮し、多くの人たちと手をたずさえ戦争法案阻止へ、力を尽くす決意です。

党創立の原点貫いて

戦争法案強行を狙う安倍政権への国民の怒りは日々高まり、反対行動は国会周辺だけでなく全国津々浦々で劇的な規模で広がっています。日本共産党は、国会内外で法案阻止のたたかひの重要な一翼を担い、総力をあげています。

戦争への道を許さない—これは日本共産党創立の原点です。党は誕生とともに、天皇制政府によって「非合法」に置かれてきましたが、侵略戦争反対と国民主権の旗を敢然と掲げ、国民に訴え続けました。

1931年9月、15年にわたる侵略戦争の発端となった日本軍国主義による中国東北部への侵略開始（満州事変）直後、党は「即時軍隊を撤退せよ！」「一人の兵士も戦線に送るな！」と声明を発表しました。すべての新聞が「守れ満蒙＝帝国の生命線」などと侵略をあおるなか、党と「赤旗」は、日本の良心を示すものとなりました。日本軍のなかにも党組織がつくられ、その発行する新聞が軍艦内で回し読みされる状況も生まれ、天皇制政府を震え上がらせました。

日本の敗戦まで、多くの先輩がすさまじい弾圧により逮捕・投獄され、命まで奪われましたが、党のたたかひは戦前史に深く刻まれています。その意義は、「最後の海軍大将」といわれた井上成（しげ）美（よし）が戦後になり「いまでも悔やまれるのは、共産党を治安維持法で押さえつけたことだ。いまのように自由にしておくべきではなかったか。そうすれば戦争は起きなかったのではあるまいか」と悔恨の言葉を残したことからも明らかです。

アジアの諸国民約2000万人、日本国民約310万人もが犠牲となった日本の侵略戦争への痛苦の反省のうえに制定された日本国憲法が、戦争放棄・主権在民を明記したことは、日本共産党の不屈のたたかひの大義を示すものです。



戦後70年の今年、侵略戦争の誤りを認めない安倍政権が憲法9条を破壊し、日本を再び「戦争する国」にする策動を加速させていることほど、アジアと世界の平和にとって危険なことはありません。安倍政権の歴史逆行の暴走を阻むために、反戦平和を貫き1世紀近い歴史をもつ日本共産党が果たす役割は決定的に重要です。

戦争法案阻止を必ず

安倍政権と正面对決する日本共産党に「暴走ストップへ中心的役割を果たして」と新たな期待と信頼が寄せられていることは、身が引き締まる思いです。いまこそともに力を合わせ、世論と運動を広げに広げ、戦争法案を必ず廃案に追い込もうではありませんか。

戦争への道を許さず平和な未来をひらくために、一人でも多くの方にこの党に加わっていただくとともに、「赤旗」を購読していただくことを心から呼びかけます。

7月15日付 しんぶん赤旗日刊紙「主張」より

読者ニュース「きずな」に対するご意見や情報をしんぶん赤旗の配達・集金者にどしどしお寄せください。

戦争法案廃案へ国民と共に全力

「独裁政治拒否しよう」本会議で反対討論・志位委員長が呼びかけ 自公強行 衆院を通過

憲法9条を踏みにじり、日本を「海外で戦争する国」につくりかえる戦後最悪の戦争法案が16日の衆院本会議で、自民、公明両党によって強行採決されました。審議すればするほど違憲性が明らかになり、「採決反対」「説明不十分」との世論が広がるなかでの暴挙です。



反対討論する志位和夫委員長
16日、衆院本会議

日本共産党の志位和夫委員長は反対討論で、「憲法違反の戦争法案の採決は断じて認められない」と満身の怒りをもって糾弾。討論後、共産、民主、社民の各党議員らは採決に抗議して退席し、維新は、同党の対案が否決された後に退席しました。生活は、本会議に出席しませんでした。

志位氏は討論で、国会論戦を通じて、戦争法案の違憲性が明瞭となったと力説するとともに、「民主主義を破壊する独裁政治を断固として拒否しよう」「戦争法案を必ず廃案に追い込むために、国民のたたかいとスクラムを組み、全力をあげる」と決意を表明しました。

反対討論では、民主党の岡田克也代表が「採決を取りやめ、憲法違反の政府案を撤回することを強く求める」と表明。維新の党の松野頼久代表は「審議を打ち切り、強行採決を行ったことは、言語道断の暴挙だ」と述べました。

共産、民主、生活、社民の4野党の議員は本会議退席後、採決に抗議する緊急院内集会を開催。各党を代表して志位、岡田両氏と、玉城デニー・生活幹事長、吉川元・社民副幹事長の両衆院議員がスピーチ。「参院審議で追い込み、国民と力を合わせて廃案に向けてがんばろう」とシュプレヒコールをあげました。

志位氏はスピーチで、予算案や条約案とは異なり、法案には「自然成立」がないこと、安倍政権が戦争法案を成立させるためには参院で強行採決するか、衆院で再議決を強行するしかないと指摘。「(安倍政権が再び)法案の強行をできない状況に、国民の世論と運動、そして野党が一丸となって追い込んでいこう」と力をこめました。

衆院での強行採決を受け、国会論戦の舞台は参院に移ります。日本共産党は、国会議員団総会を開き、戦争法案廃案のために全力をつくす決意を固めあいました。

志位氏は、あいさつで、沖縄の米軍基地問題、原発の再稼働問題、戦後70年にあたっての首相の歴史認識問題などをあげ、「参院段階のたたかいを展望した場合、どの問題も、安倍政権にとって大難問です」と強調。「あらゆる分野で国民のたたかいを発展させ、合流させて、安倍政権を打ち倒し、戦争法案を必ず廃案に追い込もう」と訴えました。

7月17日付 しんぶん赤旗日刊紙より

この「きすな」は森本ふみお議員のブログ (<http://m.okajcp.com>) でも見れます

生活に役立ち勇気と確信のわくしんぶん[赤旗]をお読みください(月額日刊紙3,497円日曜版823円)